

公益信託福原心理教育研究振興基金 設定趣意書

委託者が専門とする心理カウンセリング、すなわち「カウンセリングおよび心理療法」の分野において、委託者の研究姿勢（研究とその成果の現場への適用の姿勢）が継承され、より多くの人々の精神的健康（メンタルヘルス）に役立つよう、気鋭の研究者の研究を奨励する。

心理カウンセリング研究の適用範囲は広く、いじめ、ストレス、不安、うつ症状、自殺念慮、など人々の問題解決に対応するものであるが、実際の適用過程において「心理教育」が重要な役割を果たす。心理教育とはすなわち、心理学専門家の知見を現場でこれら問題を抱える対象者と接する人々（教師、医師、看護師など）に分かち、教え、これを実践してもらう。そして現場における実践の成果を心理学専門家にフィードバックしてもらい、心理学専門家はより有効な適用の可能性を研究することである。

本基金ではこのような観点から、「心理教育がより有効となる研究」を励ましたい。本基金が奨励する「心理教育がより有効となる研究」は、心理カウンセリング研究における発展的な研究であり、これを通して、社会的貢献ができると考える。

幅広い分野からの斬新な研究を期待します。

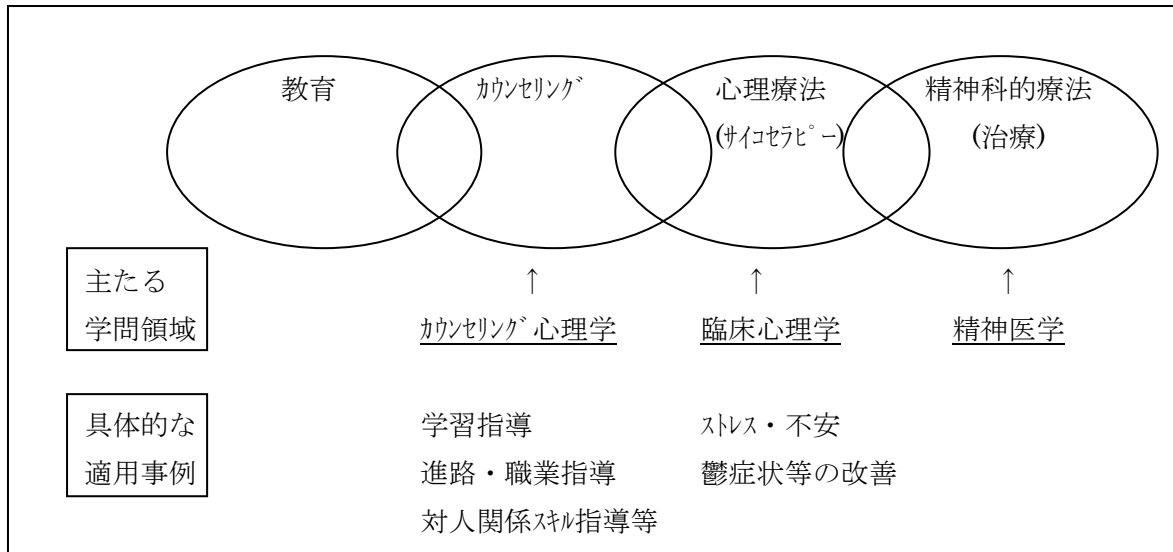
平成25年8月9日

福原眞知子

設定趣意書 補足説明

1. 心理カウンセリング等について

委託者は、心理カウンセリング等について下記の様に考えます。



(1) カウンセリングとは、相談者の問題解決や精神的健康を援助することを目的とし、具体的には、学習指導、進路・職業指導、対人関係スキルの指導等において活用されます。

学問的なバックボーンは、主としてカウンセリング心理学です。

(2) 心理療法とは、相談者の行動の変容を目指すもので、様々な行動療法（認知行動療法等）、精神分析等があります。

具体的には、ストレス、不安、鬱症状等の改善に役立ちます。

学問的なバックボーンは、主として臨床心理学です。

(3) 上記のカウンセリングと心理療法を総称して「心理カウンセリング」と呼びます。

(4) 心理教育とは、カウンセリング心理学・臨床心理学の成果をカウンセリング・心理療法等の現場において活用し、現場での成果・知見を理論家（研究者）にフィードバックして更なる向上に役立てていく、一連のプロセスのことです。

2. 「心理教育がより有効となる研究」とは

心理教育の学問的バックボーンとしては、カウンセリング心理学・臨床心理学があります。

参考として、科研費の細目で言いますと、臨床心理学（細目No.: 4103、主なキーワード：心理療法、カウンセリング等）が中心となりますが、心理教育はより学際的な分野です。この分野に留まらず、教育心理学（細目No.: 4102、主なキーワード：パーソナリティ等）、応用健康科学（細目No.: 2403、主なキーワード：ストレスマネジメント等）、内科学一般（細目No.: 8201、主なキーワード：心療内科学、ストレス科学等）をはじめとする、幅広い分野からの斬新な研究を期待します。